

2024 年 1 月 28 日（日）「青白い馬の騎士 ～新しい時代への胎動～」

ヨハネの黙示録 6:7-8

7 小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物が「行け」と言うのを聞いた。8 そして見ていると、青白い馬が現れた。それに乗っている者の名は「死」と言い、これに陰府が従っていた。彼らには、剣と飢饉と死と地の獣とによって、地上の四分の一で人々を殺す権威が与えられた。

【序論】

聖書は福音を伝えている書であり、読者にとって良きおとずれのことばです。しかしながら、全体として書かれている内容は、平和と理想郷の世界が直ちに訪れるのではなく、歴史の流れの中でも歴史の終わりにも多くの血が流され、自然災害や天変地異を経て新天新地が実現するというものです。そもそも、主イエスの福音もまた、十字架刑という極刑と苦しみと冤罪の死を通して実現したものであります。神のご計画が成就する前には必ず何らかの大きな苦難が起きる。出エジプトもバビロン捕囚も然り、神の民の拘束を経て解放がありました。このことを聖書は「産みの苦しみ」という表現で言い表します。子が産まれる前に妊婦さんは大変苦しいところを通らなければなりません。しかし、産まれた後はその喜びで、苦しみは過去のものとなります。この世界もまた、地に大きな変動が起き始めたならば、次の世界への胎動が始まっている兆しと言えるでしょう。

【本論】

今日の箇所では、小羊が第四の封印を解き、第四の馬が現れます。

本論 1. 青白い馬に乗る騎士

小羊が第四の封印を解いたとき、私は、第四の生き物が「行け」と言うのを聞いた。そして見ていると、青白い馬が現れた。それに乗っている者の名は「死」と言い、これに陰府が従っていた。(6:7-8a)

ここに登場するのは「青白い馬」です。聞くからに不気味な様相を呈していますが、イメージの通り「青白さ」は「死体の色」(冷たい鉛色)を表し、この馬に乗る騎士はまさしく「死の使い」です。「死」という名前が付けられているところが恐ろしい。「陰府が従っていた」とは、死者の行き先を表しており、この騎士によって引き起こされる災いで命を失う人々の逃れがたい運命を表しています。では、この騎士はどのような災いを地にもたらしていくか。それが 8 節後半の内容です。

本論 2. 包括的権威（支配構造の拡大）

彼らには、剣と飢饉と死と地の獣とによって、地上の四分の一で人々を殺す権威が与えられた。(6:8b)

「剣」「飢饉」「死」「地の獣」と四つの要素が出てきます。一つひとつ解説を加えていきましょう。

① 剣

「剣」は「赤い馬」に乗って出てきた第二の騎士の「大きな剣」(6:4)と共通しています。第二の騎士には「人々が互いに殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取る力が与えられた」と言われているように、戦争をもたらす権威が与えられました。現代における世界の戦争屋はネオコン（ネオコンサーバティズム）という勢力であり、アメリカの政権内部に深く入り込んで世界中に戦争の火種を蒔き、消費期限の近い武器を売ることによって金儲けをしている人々がいます。彼らにとって戦争はビジネスに過ぎず、お金を人の命よりはるかに重要なものと見ている。彼らの思想には世界の人口削減というものがあるので、戦争が生じることはその目的達成のために好都合でもあるのです。

第四の騎士にも同じ権威が与えられていて、後から登場する者ほど世界に及ぼす影響も大きいと思われます。

② 飢饉

「飢饉」は「黒い馬」に乗って出てきた第三の騎士がもたらした「物不足」「インフレ」と共通しています(6:5-6)。そこでは、小麦と大麦の値段が通常の価格よりはるかに高く設定されている不安定な社会情勢が示されていました。インフレが起こる要因は、通貨を発行しすぎることだけでなく、需要と供給のバランスが崩れるところにもありますが、戦争や感染症などの影響によってタンカーの動きが滞ると、本来入ってくるはずの物資が入ってこない状態になります。たとえ供給側の生産が充実していても需要側に問題があると、供給側には物が残り需要側には物が届かないという状態になり、結果として両方が困ることになってしまう。そういう事態も想定して保険がかけられてもいますが、そこで生じる賠償金の支払いによって、保険会社が破綻する可能性もあります。それに伴い保険料も吊り上げられることになる。現在、パナマ運河やスエズ運河の水位が下がっていることが原因で、物流に大きな影響が及んでいます。気象変動もまたインフレの原因となることが分かります。

第四の騎士にも同様の災いを世界にもたらす権威が与えられているようで、第三の騎士よりも更に大きな力をもって働きかけるのでしょう。

ここまでは「剣」「飢饉」と、他の馬の騎士も持っている権能と重複する内容でしたから、第四の騎士というのは包括的な力を持つ者であることが分かります。しかし、この第四の騎士には更に二つの権能が加えられています。

③ 死

「死」と訳されたことばは「θάνατος」で、確かに「死」を意味するのですが、「疫病」と解釈している人も多く、私もそのように理解しています。14 世紀に欧州を覆い尽くした疫病（黒死病、ペスト）は、フランスの小都市アヴィニョンの人口を半分に減らし、イングランドでも死亡率 50%という驚異的な数字を叩き出しました。二人に一人が死ぬという恐ろしい現実が迫ってきていた当時の人々の心境とはどのようなものだったのでしょうか。

現在も様々なウイルス感染が世界を脅かしていますが、目に見えないだけに真相が分かりません。病気の蔓延に乗じて薬の販売で金儲けをする人々もあり、天災と人災が入り混じったような世界が広がっています。また、副次的な影響として、行動制限が人間に及ぼした心的ダメージ、飲食店の業務制限がもたらした不景気、ゼロゼロ融資の返済が滞り破産に追い込まれる経営者、再就職先が見つからず途方に暮れる人々……と、コロナ後もボディーブローのように社会を痛めつけています。

④ 地の獣

獣による災いとは、野生の動物たちの異常行動を指すのでしょうか。最近、日本でもクマの出没が問題になっていますが、普段は人間と共生していない獣が食料を求めて山から降りてくるのかもしれません。また、山を切り崩して設置している太陽光パネルに伴う環境破壊を動物が嫌がって山から降りてきているとも言われます。「獣害」というのは人間側の主張ではありますが、農作物を荒らすシカやイノシシ、人間を襲うサルやクマ、スズメバチの襲撃、地域によってはアナコンダのような大蛇が人間を飲み込んだとか、ワニの犠牲者などもニュースになることがあります。動物界にも何らかの危機が訪れると、一種のパニック状態になって人間を襲うのかもしれません。昨年夏の異常な暑さにより、野生の動物の食糧も不足しているのでしょう。

今日の箇所と関連の強いエゼキエル書のある箇所には、「悪い獣」という表現が含まれています。

主なる神はこう言われる。私が人と家畜をそこから絶ち滅ぼすために、四つの災いをもたらし裁き、すなわち剣と飢饉と悪い獣と疫病をエルサレムに送るとき、（エゼキエル 14:21）

本論 3. 数えきれないほど多くの人々

「地上の四分の一で人々を殺す権威が与えられた」というフレーズの意味するところを考えておきましょう。まず、「四分の一で」という訳が理解しにくい点を指摘させていただきます。新改訳第三版では「彼らに地上の四分の一を剣とききんと死病と地上の獣によって殺す権威が与えられた」、口語訳では「地の四分の一を支配する権威」と訳されています。原文を直訳すると「地の第四の上に」であり、必ずしも「四分の一」を意味するものではありません。この箇所を理解するために、私は聖書の中で「第四」に相当する用語をくまなく調べていたところ、意外な箇所に行き着きました。民数記 23 章には、預言者バラムに「イスラエルを

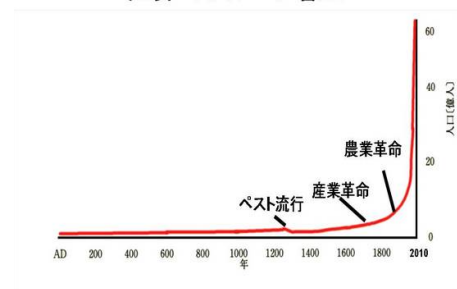
呪ってほしい」と依頼したモアブの王バラクとのやりとりが出てくるのですが、その依頼を受けたバラムが語ったことばの中に「第四」という用語が含まれているのです。

誰がヤコブの塵を数えられようか。誰がイスラエルの砂埃の粒を数えられようか。私は正しい人々に連なって死にたい。私の終わりが彼らと同じようであるように。(民数 23:10)

バラムはイスラエルを呪うのではなく、祝福することばを語りました。ここでの日本語訳では「第四」という言葉は出てきませんが、「砂埃の粒」と訳された「רֶבֶב／ローバー」という語は本来「第四」を意味するのです。この箇所との比較によって理解できたこととして、おそらく今日の黙示録 6:8 の「四分の一」とは、「数えることもできないほど多くの人間」を意味すると思われます。訳し直すと、「地上の数えきれないほど多くの人々を殺す権威が与えられた」となり、意味が通りやすくなるでしょう。

現在 78 億人の人間が地上にはいるようですが、これほどまでに人口が増加したのは、実は 18 世紀後半に起きた産業革命のあたりからであり、特にそれとほぼ同時並行で起きた農業革命の影響が大きかったと考えられます。肥料を生産する技術の革新と農機具の機械化（農業テクノロジーの発達）により、生産量が爆発的に増加し、過去には考えられなかった地球の人口を養えるようになりました。

世界の人口の増加



現在、増え過ぎた人口をどうするかということが国連で問題視されており、その対策として様々な提案が出されているようです。日本においても将来の経済不安によって結婚しない若者が増えてきていますので、それに伴う「少子化」という現象も、長期的な意味における政府の政策と言えるのかもしれません。

【結論】

さて、黙示録のメッセージを現代的な問題と絡めて読み解いてまいりましたが、現在世界で起きていることがそのまま「～色の馬の騎士」の活動に当てはまると言っているわけではありません。ただ、社会が混乱期に突入していくとき、人々は大きな苦難に直面するのです。それは、何らかの意味で次の時代の幕が開けようとしている兆候であり、それぞれの時代に応じたレベルで起きることでもあります。実際に世の終わりが来るとき、過去のものとは比較にならないほどの苦難が地球上に現れるのでしょうか。それらは、人の目には悪しきことに映りますが、神の大きな救済のご計画の一部をなしているというのが、聖書の真理を知る者の見解です。だから、私たちは恐れるのではなく、地上で苦難が起こるときには、新しい時代の幕が開けるための胎動を感じていると捉えるべきでしょう。神の支配は常に悪の支配の上にあり、悪しき者の活動さえも神の良きご計画のために用いられているのです。私たちが目を向けるべきところは常に神の国の完成であり、そのために懸命に生きるのです。7章では、そのような苦難の中で信仰者が守られていくことが明記されています。

【祈り】

歴史全体を支配しておられる天の父なる神様。この世界で起きていることの背後には、人間の悪しき企みによるものが限りなくあります。どうしてこんなにひどいことが起きるのかと人は考えます。そして、答えを見出せないことが現在は多く残されています。しかし、聖書は苦しみの上に訪れる神の解放の御業を約束しており、万事が主の御手の中にあると語っています。私たちは現実を直視しつつ、常に最終的な贖いの御業を見つめ、それを信じて歩んでまいります。それと同時に、私たちをイエス・キリストの平和を地にもたらす者としてくださいようお願いいたします。

【祝祷】

仰ぎ願わくは、
人の目に悪と映ることをも支配し、御手の中で最善の御旨を成し遂げ給う、父なる神の愛、十字架の苦しみと死を通して、多くの人にまことのいのちを与え給うた、主イエス・キリストの恵み、
世界で起きていることの本質を見極めさせ、新たな時代への胎動を聞き取らせ給う、聖霊の親しき交わりが、
あなたがた一同の上に、限りなくあらんことを。